

鳥獣保護管理調査コーディネーター

福江 佑子

NPO法人

生物多様性研究所あーすわーむ

対象鳥獣

アライグマ

活動地域

長野県

● 事業内容

軽井沢町におけるアライグマの対策

および長野県内における生息状況の把握

■ 事業の背景

長野県は1980年代から散発的にアライグマの目撃情報があったが、2001年に軽井沢町では目撃やロードキルの回収があり2004年から町による対策が開始。長野県全域では侵入初期の市町村が多いが、分布は拡大。防除計画の策定を検討中である。

■ 実施した内容

(1) 軽井沢町からの委託業務の受託者（継続の委託業務）

アライグマの生息情報の収集、捕獲、個体の分析。家屋侵入等の被害を受けた住民への現場対応（天井裏等での痕跡調査や侵入口の調査、捕獲、再発予防の対策アドバイス、啓発）など、全体に関わる。

(2) 長野県自然保護課からの委託業務の受託者（複数年）

捕獲されたアライグマの解剖分析および情報収集等のモニタリング、普及啓発等

■ 事業の成果

軽井沢町では単独事業としてアライグマ等外来種の対策を実施している。早期対策が功を奏し、2002年から捕獲を開始して以来、約20年間の捕獲数は100頭程度で、急激な増加を抑え、低密度状態を維持している。外来種の最も有効な対策は「早期発見、早期防除」であるが、軽井沢町はそれが実行できた数少ない事例だと思われる。しかし、低密度になり捕獲数が減少すると、「捕獲数が少ないので費用対効果が低い」とシカなどの報奨金制度と同様に捉えられることがあり、根本的な外来種対策の考え方を浸透させることは課題の一つである。

長野県全域では侵入初期の市町村が多く、捕獲個体を解剖分析した結果や捕獲数、捕獲地点の蓄積等から、各市町村での生息状況を把握し、定着度を判定している（図1）。それらをもとに市町村等に出向き、担当者への啓発に役立てている。大型獣の生息数が多い長野県においては、侵入初期であるアライグマには関心が向きにくく、さらにアライグマの被害が他の野生動物の被害に隠れていることもある。情報収集や捕獲個体の収集が課題である。

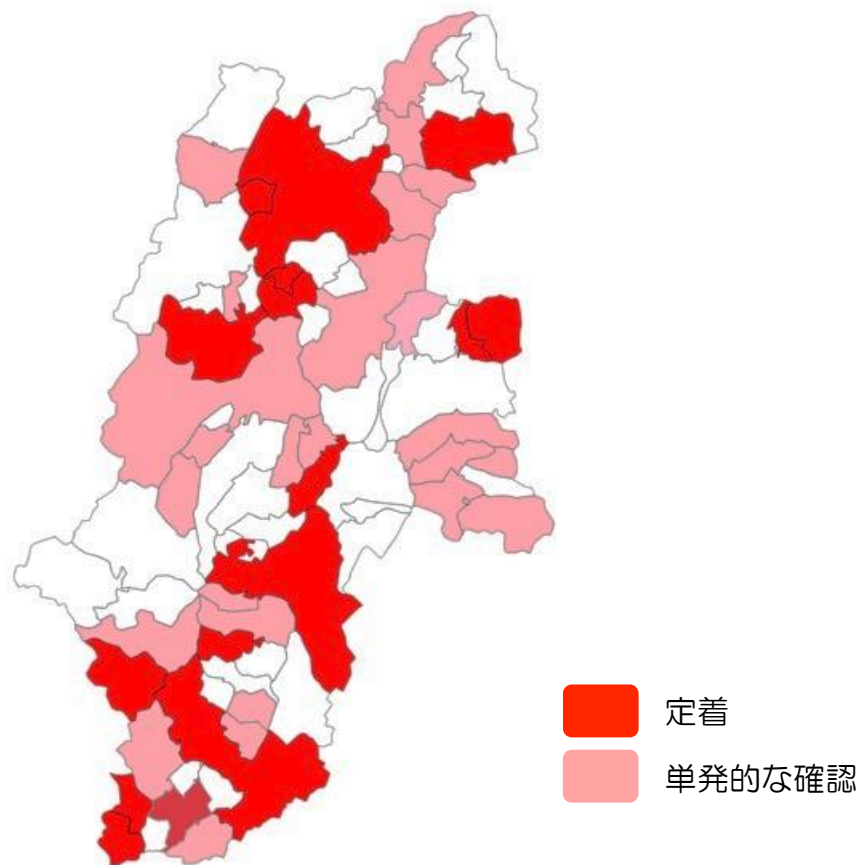


図1 長野県のアライグマの定着状況

※図の出典：長野県版外来種対策ハンドブック～みんなで守る信州の自然～



写真 家屋侵入しようとするアライグマ

※モニタリングしながらアライグマやハクビシンの捕獲を実施